

宇治市地域公共交通会議会議録

令和 3 年度第 2 回

令和 3 年 11 月 29 日（月）

14 時 30 分～

宇治市産業会館 1 階 多目的ホール

令和3年度第2回宇治市地域公共交通会議会議録

令和3年11月29日（月）

14時30分～

宇治市産業会館 1階 多目的ホール

1. 会議次第

協議事項

(1) 炭山地域における交通空白地有償運送の実施について

2. 出席委員（14名）

会 長	高橋 愛典
副 会 長	井上 学
委 員	山本 直彦、島崎 貴士、岡田 一敏、槻木 章、 杉本 英樹、上田 智之、曾川 高円（代 金澤）、 松田 克也、水谷 真（代 谷口）、西村 智、 五十嵐 司（代 飯田）、久下 伸

3. 欠席委員（2名）

毛海 千佳子、吉田 實子

4. 事務局（4名）

交通政策課長	井上 宜久
交通政策課係長	西岡 信彦
交通政策課主任	小倉 寛朗貴
交通政策課主任	木村 謙斗

5. 傍 聴（2名）

6. 庶 務（1名）

交通政策課嘱託職員 松下 順子

令和 3 年度第 2 回宇治市地域公共交通会議

令和 3 年 11 月 29 日（月）

14 時 30 分～

宇治市産業会館 1 階 多目的ホール

炭山区町内会の出席者紹介

交通空白地有償運送の登録申請者となる炭山区町内会の出席者（桂氏）
について会長より紹介

協議事項

- (1) 炭山地域における交通空白地有償運送の実施について
事務局より資料 1 から資料 2 をもとに説明

【委員】

運行概要の 2 ページ、3 の（2）運送の区域について、備考欄で、「ただし、宇治市炭山から六地蔵・木幡・平尾台・五ヶ庄エリア」と書いているが、文中の話を整理すると帰りの運行もあるため、「から」という言い方じゃないほうがいいのかなと思う。

それと、反対するつもりはないが、実施するにあたって、いわゆる運転者の平均年齢というのは調べているのか。

【事務局】

運行の区域の箇所について、どのような表現にするかは、京都運輸支局に確認させていただきたい。

また、運転者の平均年齢については、事務局で確認したところ、平均が 61 歳となっており、登録いただいている方のうち最年少が 43 歳で、最高齢が 77 歳となっている。

【委員】

住民が 291 名で、21 名の登録というのは、非常に多い登録数と思う。これはいわゆる地域が不便なので、登録しようという意思の表れかなと思うので、非常に

いいことだと思う。今、平均年齢が 61 歳というのも、普通のボランティア活動の運転者からすると、恐らく私が知っている限り、非常に若い層だなと思う。

気になるのが高齢者について、今世間でよく言われているのが、逆走とか、判断を間違ふとかいうことで、事故を起こすことが一番不幸なことなので、運転をやってあげるよというふうに言われて、どのぐらいの年齢がいいのか、この辺は炭山地域の住民の中で、この年齢ぐらゐまでというような自主的なことを決められるほうがいいのかなと思った。

【事務局】

こうした点で地域とも課題があるということは、私どもも同じように認識しており、なるべく安全な運行ができるよう、地域の方々も含めて、我々も勉強、研究しながら、進めていきたいと思っている。

【委員】

運行の区域について、炭山から出るのは分かるが、逆に六地藏・木幡・平尾台・五ヶ庄エリアから炭山に入ってくるのは、どこかで場所を決めるのか。

【事務局】

今のところ目的地としては、炭山地域から病院や駅が多いと想定している。帰りについてもうまくマッチングができれば、同じく駅や診療が終わった時間帯に病院へお迎えに行っていていただき、そこから炭山地域に帰っていただくようなことを想定している。

【委員】

マッチングができなければ、タクシー利用をされたり、バス停で一番近いのは平尾のバス停になるが、そこまで何かしらの交通手段で行かれて、そこからまた有償運送で迎えることになるのか。

【事務局】

現状の助け合い移動支援の状況でもそうだが、炭山地域から町の目的地まで、行き、帰りにマッチングできない点については、現状、タクシーを使われていることとか、ご家族の方がお仕事を終わられて帰る時間帯とかであれば、ご家族の

方が送迎されていると聞いているので、自家用車の運送になっても同様のことを考えている。

また、こうした状況になってきたら、バス停からはバスを使っただけとか、今後の運用にはなってくるが、そういう方向性で地域とはお話をさせていただいている。

【委員】

ということは、炭山から出た方は、必ず有償運送で帰るわけではないということ。イコールではなくて、ご家族の方が連れて帰ってくれるとか、タクシーになるとか、そういう交通形態となるのか。

【事務局】

運転者の方々や地域の状況にもよるが、戻れない場合については、タクシーをご利用いただくことにもなるので、必ず往復の有償運送ということではないかと思う。

【会長】

炭山地域の方にお越しいただいているので、少し先ほどの説明に対する補足や地域の状況をお話しいただけるとありがたい。

【炭山区】

今、事務局から説明があったが、行きについてはマッチングがしやすいが、帰りについては、例えば病院が何時に終わるか分からないということで遠慮されて、最初からマッチングせずにタクシーで帰るという前提で出られるお年寄りの方が多い。それと、やっぱりタクシーを利用していると、金額が張ってくる。我々、助け合いの運行を始めたきっかけが、お年寄りの中から病院に行ったが、医療費よりタクシーの運賃のほうが高いという話を聞いて、これは何とかしないといけないと。宇治市にも大分かけ合ったが、例によってなかなか進まない。それで、住民の中から宇治市とかけ合うことはするけれども、今困っている人を助けようということで、ボランティアで運行を始めたのが2016年でした。それからずっと継続をして、今回、2018年かな、宇治市の議会に請願書を出して、全

会派が賛同してくれた。3年間かかって、ようやくこぎ着けたということで、こういうことを大事にしながら、進めていきたいなというふうに思っている。

この先、どんどん利用者が増えるかどうかは、なかなか厳しい状況にあり、今までの利用者は、5年間で延べ大体1,000人を運んだ。ピークのときには1年間で300人を超えるような運行もしたが、最近はコロナ禍でだんだんと利用を控えられている。また、当初は無料ということで、それならお世話になると。こうなったが、それがずっと積み重なってくると、利用されるほうも心の負担になってくる。いくらか払いますよという形になって、こういう形にできたほうがいいなということを思っていて、今ようやく実現しそうなので、より炭山の交通が進んでいくように、頑張っていきたいなと思っている。

【会長】

非常に貴重なご意見、生の声を伺えたというふうに考えている。

【委員】

交通空白地有償運送の実施後の課題について、将来的には交通事業者による運行を目指すと書いているが、交通事業者による運行が難しいからこそ、交通空白地有償運送という苦渋の決断をなさったのかなという気がするが、その先に交通事業者による運行を目指すというのが、若干奇異に映るというか、これは何か展望があつてのことなのか。

【事務局】

本来、自家用有償運送はコミバスとかデマンド交通が行き届かないところでの最後の手段というのが世の中的にはたくさんある。ただ、炭山においては、本来、公共交通のなかったところに地域の方がボランティア輸送されて、それがさらなる交通へ進化する過程の一つとして有償運行をする選択肢を持つということなので、手続上交通事業者ができないという形の点検を受けるが、これは今後、交通事業者の新たな需要の喚起ということでも、日本でも少ない例なのかなと思っており、それが地域の方の努力によってなされるということは、宇治市にとってもすばらしいことと思うし、市としてもその地域活動に対して支援を行っていきたいと考えている。

【委員】

実は京都府下の例で申し上げますと、特に北部でバス路線が撤退するのが早かったエリアであるが、そういうエリアでは早くから住民ボランティアがあって既に20年ぐらい経ってきている。

一方で、先ほど委員から意見があったように、それが当たり前になってくると、今後ドライバーを志願する人がどんどん減ってきて、団体をどうやって維持していこうかというのが、今、京都の北部でボランティア輸送をやっている皆様の懸念であり危機感で、それが現実のものとなりつつあるのが現状である。

今回、私の目から見ても野心的だなと思うのは、今までこういう交通会議をした場合には、青ナンバーの人が撤退するから白ナンバーでやりたいで終わっているケースがほとんどで、世の中に例がないわけではなくて、私も近畿で経験したのは2,3件あり、最初は白ナンバーでやるが、有償でお金を払ってどうやってその需要をまとめていくかというのをきっちり検証されたいと。それを検証した先には、青ナンバーがそこに参画していく余地が出てくるということ。そういうことを最初の段階で述べている会議は、もちろん初めてだが、そういうところを見据えながら、乗り合わせていくことによって、将来迎えるだろうドライバー不足に対してどういう手が打てるかというのを、まさに今回は見ていかれる。それもちろんとお金を取る形では、非常に珍しい例であり、先ほどおっしゃられたように、普通は青ナンバーが走れない、だから白でいくと。そうなりがちだが、今、恐らくこの状況からいくと、青に委託しても採算割れが起きてしまう。じゃ、その採算割れにならないラインをどうやって探していくかということを有償運送でやらせていただきたいというふうに私は勝手にそういうふうに読んではいるが、そういう思いでやられるというのは府下では珍しいケースで、今後それが、みんなが都合を合わせていくということをしていただける先にタクシーにご協力をいただく。そうすることでタクシー会社はその地域で営業所を残して、車を走らす意味が残ってくるということに、いいスパイラルが起きるかのように思うので、取組の先の展望も一緒に含めて、今回の実証運行の中できっちり検証して行って、地域に落としていただければと思っている。

【会長】

私からも補足をさせていただくと、私も京丹後市とかは、ここ10年、15年ぐらい何回か調査している。最初は従来型のバスの活性化をしていって、それも相

応の成果を挙げてはいるが、例えばタクシー会社が営業所の撤退をしているとか、そういったところはなかなか手が回らなくなってきており、交通空白地有償運送というのが制度的に使われている。こういう例の調査もやっていた。これに比べると、宇治市自体は大都市圏の一部であり、条件は違っているところであるので、そこで今、委員がおっしゃった野心的というようなところもあると思うが、そういった中で全く条件が違うところで需要を喚起する機会にもなり得るといふように、私も一委員として考えている。

【委員】

先ほど委員がおっしゃったように、今回の目標というのは、新しいビジネスに皆さんがチャレンジしてほしいわけだが、なかなかそういうことができない中で、地域の方々から新しいビジネスチャンスというのを探っていくというものだと思う。今回の計画はとてもすばらしいので、ぜひこれを進めていく中で目標することは、ずっとこれを続けるのではなくて、この地域にお住まいの方々が時間に合わせて乗り物に乗っていくという、そういったことのチャレンジをしていくというライフスタイルの転換が目指されることを非常に期待している。なので、行きは住民の方に送っていただいて、帰りはいろんな手段で帰ることができるという、1つの移動手段だけで終わらなくて、多様な手段の中から何が最適かというのが選択できるというのが公共交通の使いこなしなので、ぜひそういうことをチャレンジしていただけるといいなと思う。

これは、今回は炭山のお話だが、こういった自分たちのライフスタイルの転換というのを炭山から始めて、それが宇治市内の他のバス事業者とか沿線の方々に波及し、時間に合わせてみんなで乗り合うことで、バス、電車、タクシーって使えるよねというふうになっていくことが宇治市に求められるので、こういったことの核心をこれからこの会議で検討できればと思う。この成果をさらに、今度はほかの山城地域とか、もっと全国的に広げていける、すごく大きなきっかけだと思うので、地域の方々にプレッシャーを与えるのではないが非常に期待している。

【会長】

先ほど病院の話が出たが、私も送迎バスを走らせているような大きな病院の担当の方にお話を伺ったことがあるが、やはり朝行く時間は大体皆さん決まってい

て、そしてまとまって行けるというのが、帰りはどうしてもそのときの診療時間がばらばらだったり、人によって幾つかの診療科を回ったりとか、帰りに買い物を済ませたりということではばらけてしまうというのは致し方ない部分があるとのこと。そういった意味では、先ほどから再三出ているが、この形の今回の交通空白地有償運送と一般的なタクシー、バスをはじめとする公共交通を組み合わせる使っていくと、選択肢が増えるというのが今回の趣旨の一つではないかというふうに思う。まだそういった意味では、いろいろ病院の送迎バスなどの活用につきましても、全国的には課題がいろいろあると思うが、今、委員も言われたように、新しい取組として地域全体とか、さらには全国の個人に波及をしていく重要なきっかけになるのではないかというふうに思う。

【会長】

採決のほうに入りたいが、言い残したことなどがあれば、発言いただければと思うがよろしいか。

それでは、ただいま審議をいただいた炭山区町内会様の交通空白地有償運送の登録につきまして、採決を取りたいと思う。宇治市地域公共交通会議として、異議はないか。

～「異議なし」の声あり～

それでは、炭山区町内会様へは、本会議において協議が調った旨の証書を後日、事務局より送付させていただく。

本日予定していた会議の日程につきましては、以上となる。

私がこちらの会議に出させていただくようになってから、明星町をはじめ、様々な取組がなされてきた。同じ市の中でも随分いろいろと、ぱっと見似ているようなところでもやり方が違うというふうな印象を受けるが、これはそれぞれの地域の方が真摯にご自身の住まれる地域の特性を踏まえて、真剣に検討された結果であると思う。なかなかある地域でうまくいったことをほかでそのままねるというのは難しいのが、こうした地域交通の政策ではないかというふうに思うので、そういった意味でも市内各地域の様々な取組をされている住民の方々に改めて敬意を表して、そしてこの取組につきましても逐次こちらの会議にご報告するなどして、様々な形でベストプラクティスというふうに言ったりするが、そうい

った例を共有して、市全体あるいは宇治市を含めたこの山城地域全体の地域公共交通がよくなっていくように努めていきたいと思う。

— 了 —

宇治市地域公共交通会議会議運営規程第5条第2項の規定により署名する。

会議録署名委員

会 長

高橋 望典

委 員

山本直彦
